

平成28年度 特別支援教育に関する研究



# 新 ひらがなチェック





## はじめに

この「新 ひらがなチェック」は、ひらがなを書字する活動において、どの部分でつまづいているか（苦手となっているか）を知り、それに対して指導・支援をしていく参考となるものです。

書くことにつまづきのある子どもは、書く活動の度に「うまくできない」体験を繰り返し積むことになり、自己肯定感を低下させてしまうこととなります。そして、周囲の理解や適切な支援がないと、国語の学習だけでなく、学習全般に対して苦手意識を持ってしまったり、学習意欲を喪失してしまったりすることにもつながります。また、学習不振に陥ることも考えられます。さらには、ソーシャルスキルの習得、コミュニケーション能力の発揮や対人関係の形成等における困難となって現れることもあります。

そこで、読み書きの学習が始まる小学校低学年において、つまづきの原因を理解し、そのつまづきに応じた指導の工夫をしていくことが大切となります。「新 ひらがなチェック」と、そのつまづきに応じた学習ができる「特別支援教育の知恵袋 書字編 平成28年度改訂版」を活用しながら学習をすすめていただくことで、児童の学びの質の向上、先生方の専門性の向上につながると考えています。ぜひご活用ください。

※ この中の「ひらがなチェック」は「LD 児のためのひらがな・漢字支援 一 個別支援に活かす書字教材―」（あいり出版：小池敏英・雲井未歆・窪島務 編著）の書字の発達評価を参考に作成しています。ここでは説明を省略していますので、詳しくは書籍をご覧ください。

### <注意とお願い>

本来、児童の書字のつまづきを捉えていく際には、様々な発達検査における書字の要素について時間をかけて専門の機関で検査していくことが必要となります。そのため、この「新 ひらがなチェック」は、あくまでもそのつまづきを簡易的に捉える1つの方法として提案しているものです。出された結果を根拠に書字の障害の判定等につなげないようご注意ください。

## 目次

- |  |    |
|--|----|
| 1. 「新 ひらがなチェック」とは                              | 2  |
| 2. 「新 ひらがなチェック」の実施の仕方(実施マニュアル)                 | 4  |
| 3. 「新 ひらがなチェック」の集計の出し方                         | 14 |
| 4. 「新 ひらがなチェック」の結果から「特別支援教育の知恵袋 書字編」を活用した指導・支援 | 19 |

# 1. 「新 ひらがなチェック」とは？

「新 ひらがなチェック」は、平成26年度研究で使った「ひらがなチェック」をさらに「書字のつまずき」の傾向がつかめるよう、「LD児のためのひらがな・漢字支援 一個別支援に活かす書字教材―(あいり出版：小池敏英・雲井未歆・窪島務 編著)の書字の発達評価を参考に作成しました。

以前の「ひらがなチェック」は「聴写テスト」で、教師が話したことば(単語)をひらがなで書くというものでした。例えば、児童の解答が空白だった場合、教師が話したことばが正しく聞き取れなかったか、ひらがなが思い出せなかったのかなど原因にはいろいろ考えられます。



そこで、「新ひらがなチェック」では、「書字のつまずき」をみる観点を以下の6つに増やし、比べることでどの部分でつまずいているのかをつかみやすくしました。

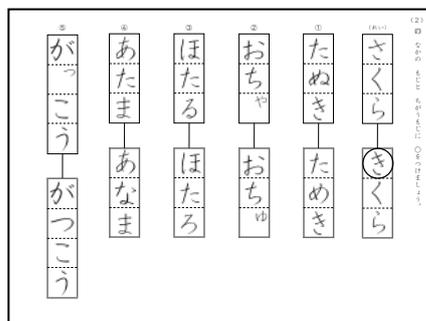
- ・ 呈示された文字と同じ文字を探せるか「文字の形態識別」・・・文字を捉える視知覚等につまずきがあるかどうかをみる。
- ・ 聞いた音韻と同じ音韻を探せるか「音韻識別」・・・音韻の認識等につまずきがあるかどうかをみる。

- 聞いた音から文字を見分けられるか「読み→文字への変換」・・・音韻から、ひらがな文字に変換できるかをみる。
- 聞いた音から文字を書けるか「読み→書字への変換」・・・音韻から、ひらがな文字が書字できるかどうかをみる。
- 書字の様子を見て同じように書けるか「書字模倣」・・・書字の様子を記憶して、同じように書字できるかをみる。
- 文字だけを見て同じように書けるか「文字→書字への変換」・・・文字を見て、書字運動の様子などを思い出しながら書字できるかをみる。

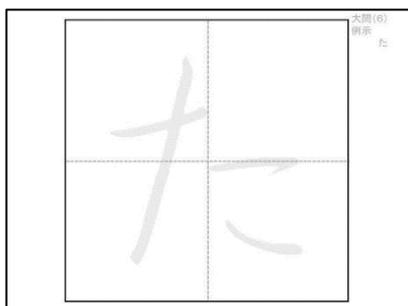
なお、「新 ひらがなチェック」は、この「新 ひらがなチェック」(PDF マニュアル)と、「問題・解答用紙」(PDF)「教師用提示シート」(PDF)「集計表・個別の結果シート」(Excel)で構成しています。



「新 ひらがなチェック」  
(マニュアル)



「問題・解答用紙」



「教師用提示シート」

新 ひらがなチェック集計表 総合教育センター		小学校 1 年 1 組													
出席番号	氏名	文字の形態識別						音韻識別				読み→文字への変換			
		(1)		(2)				(3)		(4)		(5)			
1	a	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	b	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
3	c	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
4	d	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
5	e	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
6	f	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
7	g	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
8	h	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1
9	i	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
10	j	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1
11	k	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
12	l	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
13	m	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1
14	n	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
15	o	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
16	p	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1
17	q	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
18	r	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
19	s	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

「集計表・個別の結果シート」(Excel)

このマニュアルの後半では、「新 ひらがなチェック」からみえてくる「書字のつまりき」に対して、「特別支援教育の知恵袋 書字編 平成28年度改訂版」の活用の仕方でも紹介しています。あわせてダウンロードしてお試ください。

## 2. 「新 ひらがなチェック」実施の仕方

### ◇「新 ひらがなチェック」実施マニュアル

#### ● 調査の目的

ひらがなの書字について、児童の実態を把握する。

#### ● 調査の内容 (A4 3枚)

大問	チェック内容	問題数	出題プリント	所要時間(目安)
(1)(2)	文字の形態識別	8問	プリント①	5分
(3)	音韻識別	4問	プリント②	20分 (表面10分 裏面10分)
(4)	読み→文字への変換	4問		
(5)	読み→書字への変換	8問		
(6)	書字模倣	4問	プリント③	10分
(7)	文字→書字への変換	4問		

#### ● 実施時間(目安)

35分(プリントごとの分割実施も可能)

#### 準備物

(児童) えんぴつ2本(えんぴつ保持具の使用は可)、消しゴム

(教員) 例示用シート、赤色マーカー

文字指導板(3枚)があるときは、白チョーク

#### ● 実施手順

- (1) 鉛筆(2本)、消しゴムのみを準備させる。それ以外は机の中にしまう。
- (2) A4両面刷りの問題・解答用紙を配付、記名させる。
- (3) 注意点を説明の後、チェックを開始する。

#### ● 注意事項

- ・以後は問題順に例を説明しながら進めていく。児童の解答が終了したら次へ進む。
- ・音韻識別の問題は必ず2回話す。また、チェックの公平さを保つため、わからない児童がいても3回以上は繰り返さない。
- ・例示したものは説明が終わったら黒板から消す。(または隠す。)
- ・単語は区切って読まず、普通で。長音、拗長音は少し大きめに言う。  
(ex. とうふ: トーフ ぐらいで)
- ・文字識別する問題は、音声での補助とならないよう、文字は読まない。

● 「新 ひらがなチェック」の流れ

<準備・用紙配付>

- ・「えんぴつ2本、消しゴムを出したら、あとのものはしまいましょう。」  
(準備ができたら)
- ・「ひらがながどれくらい上手になったか、確かめるプリントをします。」
- ・「今から先生といっしょにやっていきましょう。それではプリントを配ります。」  
(用紙を配付)
- ・「クラス、番号・名前をかきましょう。」  
(クラス・番号・氏名を記入)
- ・「わからないところは書かなくてもかまいません。ひらがなはマス目に収まるよう、ていねいに書きましょう。それでは始めます。」

(1) 文字の形態識別 (プリント1枚目 表)

「(1) <sup>しかく</sup>□のなかの ひらがなと おなじむきのものに○をつけましょう。」

「黒板を見ましょう。(「き」の例示を示す。) 上のひらがなと同じ向きはどちらですか？」

**【注意】 例示の文字は読まない。**

例示

(れい)  
き

|

ち

|

き

しばらく答えを聞いたら  
「答えは下です。」  
とって○をつける。

<確認できたら例示を片付ける。>

(1) □のなかの ひらがなと おなじむきのものに ○をつけましょう。

③	②	①	(れい)
ち	の	も	き
さ	の	も	ち
ち	の	も	き

「同じようにして①～③も○をつけましょう。できたら鉛筆を置いてください。」

**【注意】 読む児童がいる場合も「しずかにやりましょう。」と伝える。**

<解答 ①も ②の ③ち>

(2) 文字の形態識別 (プリント1枚目 裏)

「(2) <sup>しかく</sup>□のなかの もじと ちがうもじに まるをつけましょう。」

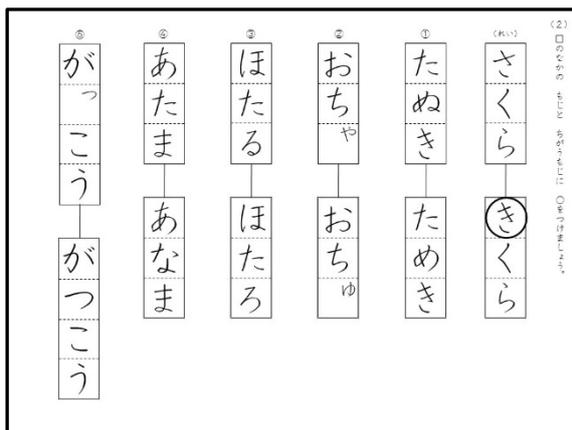
「黒板を見ましょう。(「さくら」の例示を示す。) 上の文字と違う文字はどこですか？」

**【注意】** 例示も文字は読まない。

例示



しばらく答えを聞いたら  
「答えは「き」です。」  
とって○をつける。



<確認できたら、例示を片付ける。>

「同じようにして①～⑤もしましょう。できたら鉛筆を置いてください。」

**【注意】** 読む児童がいる場合も「しずかにやりましょう。」と伝える。

<解答 ①「ためき」の【め】 ②「おちゆ」の【ゆ】 ③「ほたろ」の【ろ】  
④「あなま」の【な】 ⑤「がつこう」の【つ】 >

(3) 音韻識別 (プリント 2 枚目 表)

「(3) せんせいが 2つのことばを はなします。 はなしたことばが おなじときは○を ちがうときは ×を なぞりましょう。」  
「ことばは2回しか言わないのでよく聞いてください。」

例示



「今から例をいいます。黒板を見ましょう。」

(○×の絵を貼り、「お」と「こ」のことばをいう。)

「お」 <2秒空けて> 「こ」 「もう一回言います。」

「お」 <2秒空けて> 「こ」

(終わったら) 「2つのことばは同じですか? 違いますか?」

(反応を見て)

「先生は「お」と「こ」といったので、(例示を見せながら) 答えは「×」です。」

「そのときは×を書いてください。」(といいながら、赤マーカーで×をなぞる。)

<確認できたら> 紙は黒板からはがし、字は消して集中させる。

「それでは①を始めます。」

「かさ」 <2秒空けて> 「かちや」 「もう一回言います。」

「かさ」 <2秒空けて> 「かちや」

<書き終わったら>

「それでは②を始めます。」

「しか」 <2秒空けて> 「ちか」 「もう一回言います。」

「しか」 <2秒空けて> 「ちか」

「それでは③を始めます。」

「ちず」 <2秒空けて> 「ちず」 「もう一回言います。」

「ちず」 <2秒空けて> 「ちず」

「それでは④を始めます。」

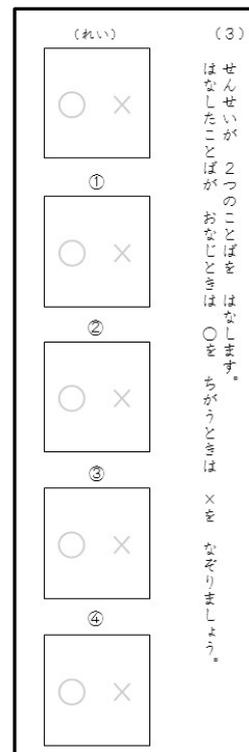
「らいおん」 <2秒空けて> 「だいおん」 「もう一回言います。」

「らいおん」 <2秒空けて> 「だいおん」

**【注意】** 声を出して○×を言う児童がいる場合は、「しずかにやりましょう。」

と注意する。

<解答 ① 「かさ」と「かちや」なので× ② 「しか」と「ちか」なので×  
③ 「ちず」と「ちず」なので○ ④ 「らいおん」と「だいおん」なので× >



(4) 読み→文字への変換 (プリント2枚目 表)

「(4) せんせいが はなしたことばと おなじものに ○をつけましょう。」

「黒板を見ましょう。今から例をいいます。」

(「が・だ」の例示を貼って、)

例示

が  
・  
だ

「が」しばらく空けて「もう一回言います」

「が」しばらく空けて「話したことは何ですか？」

「先生は「が」といったので、答えは「が」ですね。」

(例示の「が」に○をする。)

<確認できたら> 紙は黒板からはがして集中させる。

「それでは①を始めます。」

「つ」しばらく空けて「もう一回言います。」

「つ」しばらく空けて「話したことばと同じものに○をつけましょう。」

<書き終わったら>

「それでは②を始めます。」

「し」しばらく空けて「もう一回言います。」

「し」しばらく空けて「話したことばと同じものに○をつけましょう。」

<書き終わったら>

「それでは③を始めます。」

「り」しばらく空けて「もう一回言います。」

「り」しばらく空けて「話したことばと同じものに○をつけましょう。」

<書き終わったら>

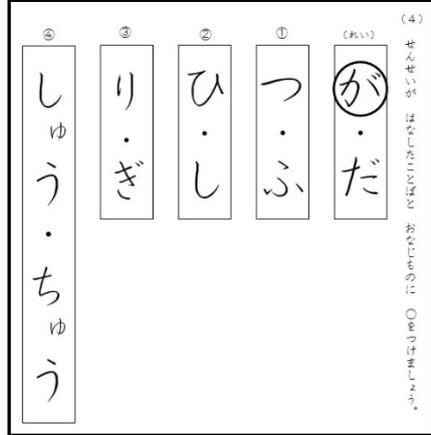
「それでは④を始めます。」

「ちゅう」しばらく空けて「もう一回言います。」

「ちゅう」しばらく空けて「話したことばと同じものに○をつけましょう。」

**【注意】** 声を出して正解を言う児童がいる場合は、「しずかにやりましょう。」と注意する。

<解答 ①「つ」 ②「し」 ③「り」 ④「ちゅう」 >



(5) 読み→書字への変換 (プリント2枚目 裏)

「(5) せんせいが はなしたことばを ひらがなで かきましょう。」

「ことばは2回しか言わないのでよく聞いてください。」

「それでは①を始めます。」

「もち」 **しばらく空けて** 「もう一回言います。」

「もち」 **しばらく空けて、児童が書き終わったら、**

「それでは②を始めます。」

「きって」 **しばらく空けて** 「もう一回言います。」

「きって」 **しばらく空けて、児童が書き終わったら、**

「それでは③を始めます。」

「だいく」 **しばらく空けて** 「もう一回言います。」

「だいく」 **しばらく空けて、児童が書き終わったら、**

「それでは④を始めます。」

「めがね」 **しばらく空けて** 「もう一回言います。」

「めがね」 **しばらく空けて、児童が書き終わったら、**

「それでは⑤を始めます。」 **※発音は<リョーリくらい大げさで>**

「りょうり」 **しばらく空けて** 「もう一回言います。」

「りょうり」 **しばらく空けて、児童が書き終わったら、**

「それでは⑥を始めます。」 **※発音は<トーフくらい大げさで>**

「とうふ」 **しばらく空けて** 「もう一回言います。」

「とうふ」 **しばらく空けて、児童が書き終わったら、**

「それでは⑦を始めます。」 **※発音は<キューショクくらい大げさで>**

「きゅうしょく」 **しばらく空けて** 「もう一回言います。」

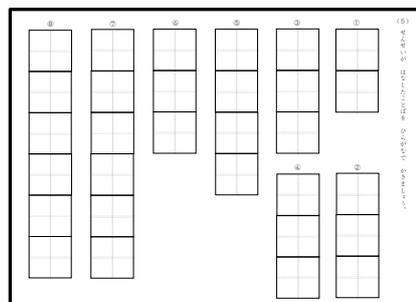
「きゅうしょく」 **しばらく空けて、児童が書き終わったら、**

「それでは⑧を始めます。」

「しゃぼんだま」 **しばらく空けて** 「もう一回言います。」

「しゃぼんだま」 **しばらく空けて、児童が書き終わったら、次の問題へ。**

<解答 ①もち ②きって ③だいく ④めがね ⑤りょうり ⑥とうふ ⑦きゅうしょく ⑧しゃぼんだま >



(6) 書字模倣 (プリント 3 枚目 表)

「(6) せんせいが こくばんに ひらがなを かきます。

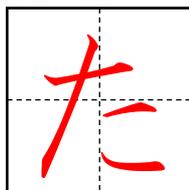
しかく  
□の中に せんせいとおなじように かきましょう。」

「先生が書き終わってから書きましょう。それでは始めます。」

例示



文字指導板の場合



例示用シートの場合

(書き終わったら) 「はい、どうぞ。」

文字指導板があれば白チョークで書く。3枚無い場合は例示用シートを黒板に貼り、そこに赤マーカーで書き込む。

書き終わったのを見届け、文字指導板の字を消す、または例示用シートをはがして次の問題へいく。

「できたら鉛筆を置いてください。」

(6) □のなかに こくばんに ひらがなを かきます。  
せんせいとおなじように かきましょう。

④	③	②	①

(6) □のなかに こくばんに ひらがなを かきます。  
せんせいとおなじように かきましょう。

④	③	②	①
き	し	の	た
よ	や	り	
う			

**【注意】** 書く文字については、音声情報を与えないので読まない。読む児童がいる場合も「静かに書きましょう。」と伝える。

<解答 ①「た」 ②「のり」 ③「しや」 ④「きょう」 >

(7) 文字→書字への変換 (プリント3枚目 裏)

「(7) <sup>しかく</sup>□のなかのことばを したに かきましょう。」

「例をみてください。上に『とり』が書いていますね。その下にも『とり』が書いています。同じように①から④も書きましょう。」

「できたら鉛筆を置いてください。」

**【注意】**書く文字については、音声情報を与えないので読まない。読む児童がいる場合も、「静かに書きましょう」と伝える。(例は文字を読んでかまわない。)

<解答 ①あ ②なす ③そら ④かっぱ >

④	③	②	①	(れい)	(7)
か	そ	な	あ	と	□のなかのことばを したに かきましょう。 <b>解 答</b>
っ	ら	す	あ	り	
ば	そ	な		と	
か	ら	す		り	
っ					
ば					

<終了・用紙回収>

「これで終わります。プリントを集めてください。」

プリントを回収して終了する。

※分割実施の場合は、そのプリントが終了したら回収する。

◇解答のチェックポイント

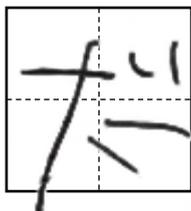
誤答と判断する条件は以下のようにする。

<明らかな誤答> ×とする

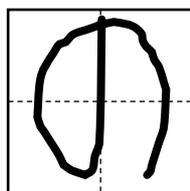
- ・無回答、空欄
- ・濁点、半濁点が抜けているもの
- ・特殊音節の間違い (ex. とうふ → とーふ、とふ など)
- ・鏡文字
- ・字形が整っていないもの (マス目全体を使っていない、線がまっすぐになっている、線の終わりが回りきらないもの)

誤答例：

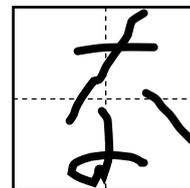
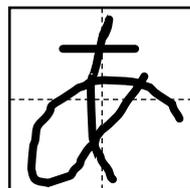
はみだし



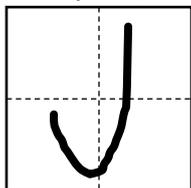
斜めの線がまっすぐ



回りきらない 字形のバランスが悪い



鏡文字



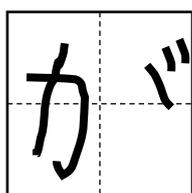
<明らかな誤答ではないが、注意を要するもの> ○とする

・字としては読めるが、払いや止め、線の角度など部分的な間違いがあるもの。

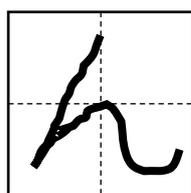
これらの場合は、その他の欄に、可能な限りの情報を記録する。

注意を要するもの

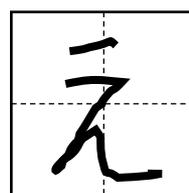
「が」の3画目の線が  
短く、位置が悪い



「ん」の山の  
部分の間隔が広い



「え」の上の点の傾きが  
おかしい



<明らかな誤答とはならないが、チェックする理由>

採点基準について、公益財団法人日本漢字能力検定協会によると「筆画を正しく、明確に書かれた字を採点の対象とし、くずした字や、乱雑に書かれた字は採点の対象外とする。」とあるように、『書ければよい、読めればよい』ということではなく、その後のひらがな指導や新しく学習するカタカナ指導、漢字指導のために、書く力の向上がなされるよう、文字の位置取り等が十分習得されていないことをとらえておくためとする。

<その他>

「新 ひらがなチェック」の実施の際には、書字時の姿勢や鉛筆の持ち方も観察しておくと、「書字のつまずき」の分析や指導・支援方法の検討の参考となる。



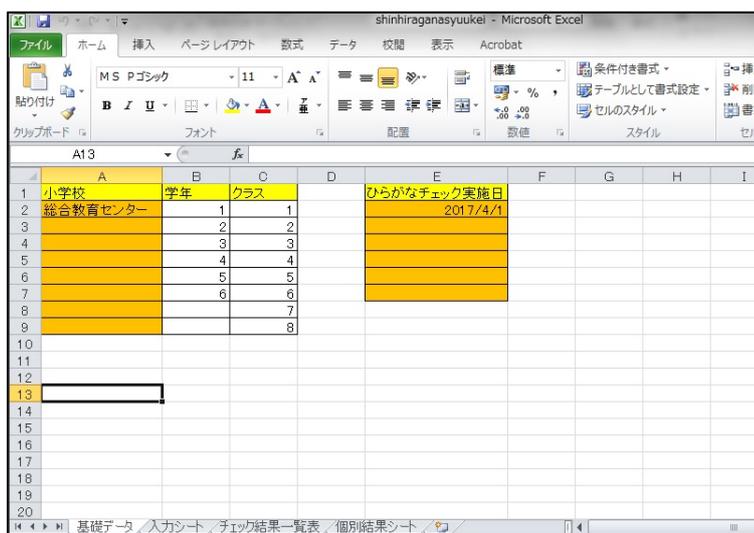
### 3. 「新 ひらがなチェック」集計の出し方

#### ◇「新 ひらがなチェック」集計の方法

- ① 「新 ひらがなチェック」の採点を行います。
- ② 総合教育センター 平成 28 年度研究成果物より以下のファイルをダウンロードしてください。

「Shinhiraganasyuukei.xlsx」ファイル  
(Excel ファイルになっています。)

- ③ ファイルを開き、「基礎データ」シートを開きます。  
※ ここでは「総合教育センター小学校」「1 年 1 組」が「平成 29 年 4 月 1 日」に「新 ひらがなチェック」を実施したと想定して入力します。



- ④ 小学校名と、ひらがなチェック実施日を入力してください。  
日付は半角英数で、/ (スラッシュ) で区切って、西暦で入れてください。  
※ クラス表示は 8 組まで準備していますが、学校の実情に応じて設定してください。
- ⑤ 「入力シート」を開きます。

A		B		C		D		E		F		G		H		I		AI	
新 ひらがなチェック集計表		小学校		1 年 1 組		文字の形態識別		音韻識別		読み→文字への 変換		読み→書字への 変換		書字模倣		文字→書字への 変換		合計	
出席番号		氏名		(1)		(2)		(3)		(4)		(5)		(6)		(7)			
1		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
2																			
3																			
4																			
5																			
6																			
7																			
8																			
9																			
10																			
11																			

小学校の欄と実施日の欄には下のように入力されるようになっていて、④で入力した学校名、実施日を選択してください。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	新 ひらがなチェック集計表									
2	総合教育センター 小学校 1 年 1 組									
3	文字の形態識別									
4	(1)					(2)				
5	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
6										
7										
8	3									
9	4									
10	5									
11	6									
12	7									

	V	X	Y	Z	AA	AB	AC	AD	AE	AF	AG	AH	AI
	2017/4/1												
	実施												
	文字の変換												
	①												
	②												
	③												
	④												
	⑤												
	⑥												
	⑦												
	⑧												
	⑨												
	⑩												
	合計												

同じようにして学年、クラスをリスト形式で入力すると下のようになります。

新 ひらがなチェック集計表		小学校 1 年 1 組										平成29年4月1日 実施																											
総合教育センター		文字の形態識別					音韻識別					読み→文字への変換					読み→書字への変換					書字模倣					文字→書字への変換					合計							
出席番号		氏名		(1)					(2)					(3)					(4)					(5)					(6)					(7)					
				①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	①	②	③	④	①	②	③	④					
1																																							
2																																							
3																																							

⑥ 児童名を入力します。

3			
4			
5	出席番号	氏名	①
6	1	A	
7	2	B	
8	3	C	
9	4	D	
10	5	E	
11	6	F	
12	7	G	
13	8	H	
14	9	I	
15	10	J	
16	11	K	
17	12	L	
18	13	M	

※ 「新 ひらがなチェック」の集計は、名前と正誤のデータの入力によって計算されます。欠席等により受けなかった児童については空欄にしてください。

⑦ 問題の正誤に従って、正答なら1を、誤答なら2を入力してください。

新 ひらがなチェック集計表		小学校 1 年 1 組										平成29年4月1日 実施																											
総合教育センター		文字の形態識別					音韻識別					読み→文字への変換					読み→書字への変換					書字模倣					文字→書字への変換					合計							
出席番号		氏名		(1)					(2)					(3)					(4)					(5)					(6)					(7)					
				①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	①	②	③	④	①	②	③	④					
6	1	A	1	1	1	2	1	2	1	1	2	1	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	2	1	1	2	1	1	1	1	1	22					
7	2	B	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	2	29					
8	3	C	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	29					
9	4	D	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	26						
10	5	E	1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	26						
11	6	F	1	1	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	26						

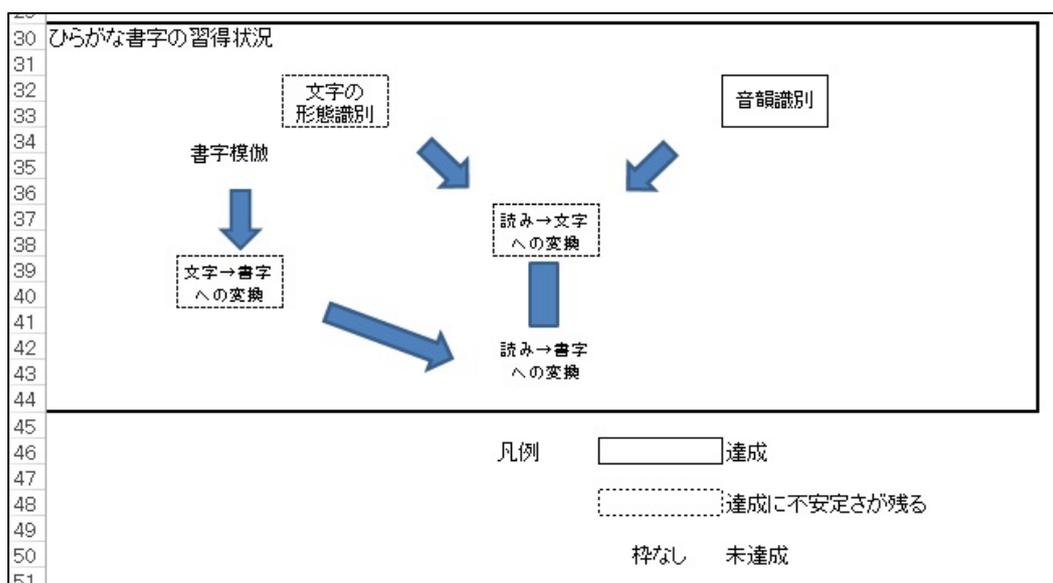
すべてを入力すると、個別の合計が右端に計算されます。



- ⑨ 「個別結果シート」に移動すると、個別の結果シートが表示されます。  
 ここでは、出席番号がリスト形式になっており、必要な番号を選ぶと、正解数や正答率、⑧で入力した間違いの特徴などが自動で表示されます

	A	B	C	D	E	F	G	H	I									
1	ひらがなチェック個別結果シート			総合教育センター	小学校	平成29年4月1日 実施												
2																		
3	1年	1組		1	番	氏名 A												
4																		
5		文字の形態識別		音韻識別	読み→文字への変換	読み→書字への変換	書字模倣	文字→書字への変換										
6	大問	(1)	(2)		(4)	(5)	(6)	(7)										
7	間違い および 気になる点																	
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16	正答数	3	3		3	2	2	4										
17	正答率	75%			75%	25%	50%	100%										
18	書字の																	

	A	B	C	D	E	F	G	H	I									
1	ひらがなチェック個別結果シート			総合教育センター	小学校	平成29年4月1日 実施												
2																		
3	1年	1組		12	番	氏名 L												
4																		
5		文字の形態識別		音韻識別	読み→文字への変換	読み→書字への変換	書字模倣	文字→書字への変換										
6	大問	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)										
7	間違い および 気になる点																	
8										①「き」に○印								
9										②								
10										③「だ」はみ出し、④「め」曲がりきらない、⑤「りょ」あり⑥「とおふ」⑦「ぎゅーしょく」、⑧「しゅぼんだま」								
11	②「の」曲がりきらない、③「しや」、④「ぎ」の斜めの線が縦向き																	
12	②「な」の字のバランス、③「ら」の字のバランス																	
13																		
14																		
15																		
16	正答数	3	4	4	3	2	1	2										
17	正答率	88%		100%	75%	25%	25%	50%										
18																		



また、個別の結果シートの下段には、ひらがな書字の習得状況を、「書字のつまずき」を知る6つの観点から視覚的にわかるようにしています。実線で囲まれている観点は達成できており、枠がない観点は達成できていないと捉えます。

#### <個別の指導計画に係る活用>

「新 ひらがなチェック」の集計から出した「個別結果シート」は、学習全般の様子を合わせて、下のように総合的にみていくことで、個別の指導計画に反映させ、支援・指導にいかすことができます。

- ・「書字のつまずきの傾向」欄に、子どもの学習や生活全般の様子からの気づきを記載する。
- ・「必要な支援」欄に「特別支援教育の知恵袋 書字編」等を活用した指導・支援をまとめる。

大事なことは、「はじめに」でも書いたように、「新 ひらがなチェック」は、つまずきを簡易的に捉える1つの方法だということです。この結果だけに縛られず、たくさんの方の視点で捉え、指導・支援を考えることが大切です。



## 4. 「新 ひらがなチェック」の結果から 「特別支援教育の知恵袋 書字編」を 活用した指導・支援

### ◇「新 ひらがなチェック」から見える「書字のつまずき」

「新 ひらがなチェック」から、「書字のつまずき」となりやすい誤答は、大きく3つにまとめることができます。1つ目は「め」「ぬ」など、形が似ている文字を書き間違えたり、鏡文字になったりする誤答、2つ目は、特殊音節が正しく書けない誤答、3つ目は書いた文字の形が整わない誤答です。

これらの「書字のつまずき」となる誤答ごとに有効な「特別支援教育の知恵袋 書字編」の取組を紹介します。

#### ① 形が似ている文字を書き間違えたり、鏡文字になったりする誤答が多い場合

このような傾向がある場合、文字の形を区別するうえで、手がかりとなる特徴に注目する能力が弱いと推定されます。

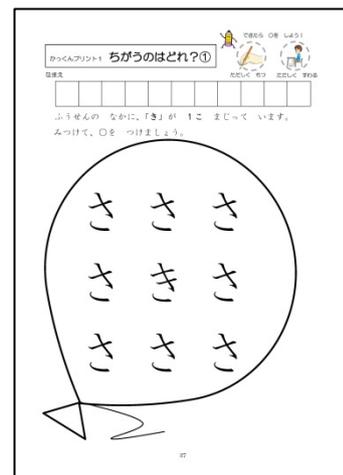
そのため、形が似ている文字どうしの「違う部分」と「全体」の位置関係の理解を促すことや、形の特徴を捉えることが指導・支援に有効となります。

このような誤答に有効な「特別支援教育の知恵袋 書字編」の取組は、「棒パズル」「ちがうのはどれ？」

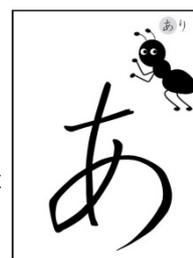
「おなじかたちはどれ？」「まねしてかこう」です。

「ちがうのはどれ？」「おなじかたちはどれ？」は、図形の同じ部分や、違う部分に注目する取組で、ゲーム感覚で取り組めることも魅力の一つです。また、「棒パズル」や「まねしてかこう」は手本を元にしなから、形の特徴に注意する力をつけていくことができます。

「ちがうのはどれ？」の問題で、文字の数が多くなることで混乱をする子どもの場合は、文字の数を減らす工夫が有効です。プリントで取り組む「かっくんプリント集」は、個々に合わせた支援が工夫できるよう Word 版も用意しています。



また、文字情報だけでなく、絵や音をつけていくことも、似た形のひらがなを区別したり、覚えたりすることに有効です。例えば、右のようなひらがなカルタを作ると、「あ」という文字の他に、「あり」の絵のイメージや、『ありの「あ」だね』と音の情報も含め支援していくことができます。



## ② 特殊音節が正しく書けない誤答が多い場合

このような傾向がある場合、「新 ひらがなチェック」の大問（3）「音韻識別」（4）「読み→文字への変換」（5）「読み→書字への変換」に誤答が多く見られます。特に大問（3）（4）の誤答が多い場合は音を聞き分ける力（音の弁別）につまずきがあると推定されます。また、大問（5）には特殊音節の問題がいくつか出題されています。「とうふ」を「とおふ」と書いたり、「きゅうしょく」を「きょうしょく」と書いたりする場合には、特殊音節が定着していないことが推定されます。

このような「書字のつまずき」に有効な「特別支援教育の知恵袋 書字編」の取組は、「リズム遊び」「はんたいことば」

「しりとり遊び」「ことば集め」「ちっちゃい『やゆよ』のバスケット」「ちっちゃい『やゆよ』集めりレー」などクラス全体での取組が有効です。

一人で取り組む場合は、苦手な部分が目立ち、自信を無くしてしまいがちにですが、例えば「ちっちゃい『やゆよ』集めりレー」などでは、「チームで困っている人に答えを言ってもよい」「他のチームと同じ答えを書いてもよい」などのルールを作ると、答えがわからなくても、周りの子どもたちの活動が支えとなり活動に参加しやすくなります。

また、「リズム遊び」のようにリズムに合わせてことばを覚えることで定着しやすくなります。

かっくんタイム⑥ ちっちゃい『やゆよ』集めりレー

【ねらい】  
・拗音、拗長音を意識して言葉集めをする。

【所要時間】 約 15分

【準備物】 チョーク（チームに1本）

【進め方】  
①指導者が、『小さい『やゆよ』』『小さい『っ』』など、拗音、促音、長音などの中から問題を選んで提示する。  
〈例〉『しやしん』や『きゃべつ』のように、小さい『やゆよ』が入っている言葉を書きましょう。  
『とけい』『おとうさん』のように、伸ばす音が入っている言葉を書きましょう。  
『はっぱ』『しっぱい』のように、詰まる音が入っている言葉を書きましょう。』

②4～5人程度のチームに分かれ、リレー形式で黒板に問題の文字を含んだ単語を書いていく。チョークをバトン代わりにする。

③5分で、いくつ単語を書けるか競争する。

④指導者が、単語に○をつけ、いくつ書けたか、数える。

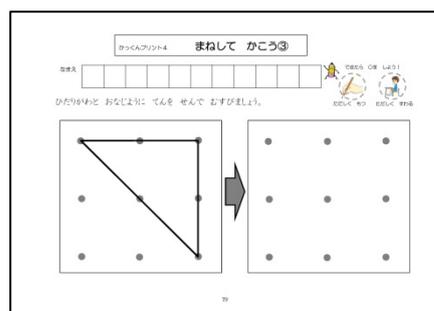
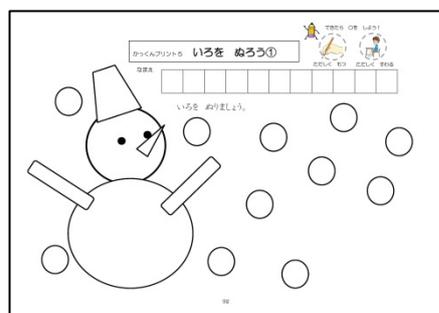
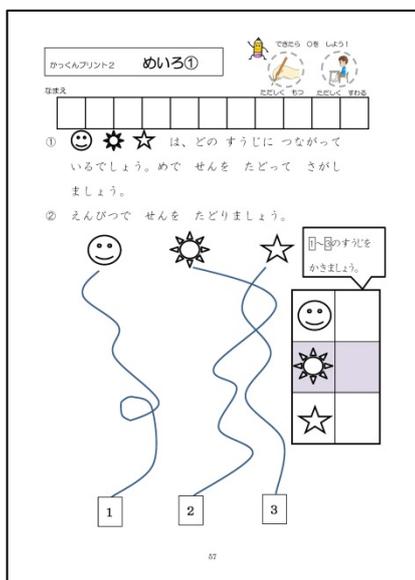
### ③ 書いた文字の形が整わない誤答が多い場合

このような傾向がある場合、「新 ひらがなチェック」の大問（５）「読み→書字への変換」（６）「書字模倣」（７）「文字→書字への変換」に誤答が多く見られます。主なものとしては、「斜めの線が垂直になっている」、「文字の終わりが回りきらずに終わっている」、「部品のバランスが悪い」、「枠から文字がはみ出てしまう」などが見られます。

平成 28 年度研究ではこれらの「書字のつまずき」の背景に、「正しい姿勢が保持できていないこと」、「正しく鉛筆が持てない」ことがあることも分かりました。そのため、書字時の様子を観察することも大切になります。

「正しい姿勢の保持」「正しい鉛筆の持ち方」については、「特別支援教育の知恵袋 書字編 平成28年度改訂版」に指導・支援の方法を記載しました。それらを行った上で、「お手玉キャッチ」「棒パズル」「風船バレー」「まねっこ遊び」「矢印体操」「ちがうのはどれ?」「めいろ」「おなじかたちはどれ?」「まねしてかこう」「いろをぬろう」の取組が有効です。

「お手玉キャッチ」「風船バレー」「まねっこ遊び」「矢印体操」などは目からの情報を元に体を思うように動かすトレーニングです。このような粗大運動がうまくいくと、文字を書く微細運動へもスムーズに進みます。特に「めいろ」「まねしてかこう」「いろをぬろう」は細かな鉛筆のコントロールが必要になります。このような運筆に関するトレーニングをたくさん経験することで、思うように鉛筆を動かしやすい、書字が安定していくことにつながります。



- ④ 「新 ひらがなチェック」と「特別支援教育の知恵袋 書字編」との関連  
「新 ひらがなチェック」と「特別支援教育の知恵袋 書字編 平成 28 年度改訂版」との関連を表にまとめました。

 形が似ている文字を書き間違えたり、鏡文字になったりする誤答が多い場合【大問（１）（２）に誤答が多い場合】

 特殊音節が正しく書けない誤答が多い場合  
【大問（３）（４）（５）に誤答が多い場合】

 書いた文字の形が整わない誤答が多い場合  
【大問（５）（６）（７）に誤答が多い場合】

		① リズム遊び	② はんだいご遊び	③ ウツシ遊び	④ ことは集め	⑤ ちっちゃい「やゆよ」のバスケット	⑥ ちっちゃい「やゆよ」集めリレー	⑦ お手玉キャッチ	⑧ 棒パズル	⑨ 風船パレー	⑩ まねっこ遊び	⑪ 矢印体操	1 ちがうのはどれ？	2 めいろ	3 おなじかたちはどれ？	4 まねしてかこう	5 いろをぬろう
		p.13	p.14	p.15	p.16	p.17	p.18	p.19	p.20	p.20	p.21	p.22	p.23	p.24	p.25	p.26	p.27
「見る力」	眼球運動								○	○	○	○	○	○	○	○	○
	視覚認知								○	○	○	○	○	○	○	○	○
	目と手の協応								○	○	○	○	○	○	○	○	○
「動かす力」	ボディイメージ								○	○	○	○	○	○	○	○	○
	手指の起用さ								○	○	○	○	○	○	○	○	○
「聞く力」	音韻認識	○	○	○	○	○	○										
	音の弁別		○		○												
「覚える力」	ワーキングメモリ		○		○				○						○	○	

「特別支援教育の知恵袋 書字編 平成 28 年度改訂版」の①～⑪が学級全体での取組、**1**～**5**がプリント学習です。学級の実態に合わせて取り組む内容を選んでください。

⑤ 「新 ひらがなチェック」と「特別支援教育の知恵袋 書字編」の紹介リーフレット

「新 ひらがなチェック」と「特別支援教育の知恵袋 書字編 平成28年度改訂版」を簡単に紹介するリーフレットを作成しました。

子どもの書字の気になる姿からスタートし、役立つ資料として「新 ひらがなチェック」と「特別支援教育の知恵袋 書字編 平成28年度改訂版」を紹介しています。校内等で「新 ひらがなチェック」を紹介する際にご活用ください。

さらに、「書字のつまずき」を軽減するには…

- ★「書字のつまずき」のある子どもの多くに、姿勢が悪かったり、鉛筆の持ち方が正しくなかったりする姿が見られます。
- 「正しい姿勢の保持」や「正しい鉛筆の持ち方」を意識する指示物
- 自分で確認できるチェック欄
- 新学習や授業の始まり等で継続的に使える「かっくんプリント」集
- 「書字のつまずき」の指導・支援に効果のあるヒントが他にもあります。お試しください！

「書字のつまずき」の理解と効果的な指導・支援のために

クラスのなかにこのような気になる子どもはいませんか？

- ★縦文字になってしまおう
- ★斜めの線がまっすぐになるなど、正確な文字が書けない
- ★マス目から文字がはみ出す

繰り返し練習しても、なかなかうまくならない…

子どもに合った支援の方法があるといいのに…

そんな「書字のつまずき」に役立つ資料があります！！

SPEC 滋賀県総合教育センター  
Shiga Prefectural Education Center

子どもの「書字のつまずき」を理解するために、「新 ひらがなチェック」をお使いください！

使いやすい A4判

分割実施可

覚えて答える問題も、聞いて答える問題も

一人ひとりの「書字のつまずき」の特徴を理解

「新 ひらがなチェック」で分かった「書字のつまずき」を軽減する手立ての一つとして、「特別支援教育の知恵袋 書字編」をお試しください！

つまずきに合わせて選べますね！

★書字のつまずきが多くてどこから始めていいかわからない。

★「きゆうり」を「きうり」と書いてしまう。

★手本の文字と同じように形がきれいに整わない。

★似たような文字を間違えたり、横文字になってしまったりする。

★「らいおん」を「だいおん」と書いてしまう。

★黒板の字を写すことに時間がかかったり、写し間違いをしたりしてしまう。

SPEC 滋賀県総合教育センター  
Shiga Prefectural Education Center